

# おのえづわ



第204号



## 年頭にあたり

宮司 吉田源彦

年の初めにあたり謹んで皇室の弥栄と、国の隆昌とをお祈り申し上げます。また、昨年の各地での自然災害により被災された皆様方には心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日でも早い地域の復興を御祈念申し上げます。

さて、今上陛下におかれては、御在位三十年をお迎えになられ、心よりお祝い申し上げますとともに、長きにわたって日本国の隆昌と国民の慶福とをもつて欣栄となされ、我々国民を愛育あそばされましたこと、有難く感謝申し上げます。この五月には今上陛下には上皇となられ、皇太子殿下には新帝即位あそばされるという皇運隆昌の佳節でもあり、御代替わりの諸儀式が皇室の伝統、日本の国柄に則り厳かに執り進められることを願って止みません。

当神宮におきましても、明治二年九月一日に明治天皇の思し召しにより、北海道開拓の総鎮守として創祀され百五十年を迎えることとなります。北海道の自然は厳しく、多くの先人の方々が労苦を重ねられ、我が身を挺して北辺の大地を拓き、今日の豊かな北海道を私たちに残してくれました。百五十年という歳月は本州の歴史に比べれば短くもありますが、時代の叡智を北海道に注ぎ、西洋の最新技術を導入して開拓に臨み、その成果を本州に持ち帰るといふ、まさに北海道開拓の事業が日本の近代化の躍進に果たした役割は少なくはありません。かかる困難を乗り越えさせる力を人々に与えたのが、北方より迫り来る外威に対する危機意識と、明治天皇の開拓によせる大御心といっても過言ではないでしょう。

# 祭典行事案内

私たちは、御代替わりという慶事、さらには北海道神宮御鎮齋百五十年という節目にあたり、この北海道の隆昌とここに  
 住む人々がともに共栄できる国づくりにさらに邁進して行かなくてはなりません。北海道の歴史を紐解き、先人の思いを今  
 一度振り返ることで、躍進の力を得ることになるのではないのでしょうか。今年は札幌まつりが百四十回を迎えます。北辺に  
 生活の場を求めた人々の思いや喜びが交々表明されているお祭りですので、是非とも多くの方々に参加戴きたく存じます。  
 最後になりましたが、御祭神の御加護のもと、皆様の新しき年が輝かしい良き年となりますことを御祈念致しまして、新  
 年の御挨拶といたします。

## 毎月「二日」

月首祭並吟詠講誕生祭  
 一日参り(※二月・九月を除く)

## 「十日」

旬祭並敬神婦人会誕生祭

## 「十五日」

月次祭並むすび会誕生祭

## 「二十日」

旬祭並興風会献詠祭

## ◆ 一月

一日(火) 午前七時 歳旦祭

三日(木) 午前九時 元始祭

七日(月) 午前九時 昭和天皇祭遙拝

十四日(月) 午前十時 古神札焼納祭  
(どんと焼き)

二十七日(日) 午前十一時 祈請祭

二十七日(日) 正午 第九回新成人寒中禊会

## ◆ 二月

三日(日) 午後三時 節分祭

十一日(月) 午前十時 紀元祭

午後一時 建国記念の日奉祝  
道民の集い

十七日(日) 午前十時 祈年祭  
(於 ホテルロイトン札幌)

## ◆ 三月

二十日(水) 午前九時 春季皇霊祭遙拝

二十四日(日) 午前十一時 入学祭

# 頓宮 札幌市中央区南一条東三丁目

## 毎月「二日」

午後六時  
 月首祭並二日講社誕生祭  
 (※二月は午前十時)

## ◆ 一月

一日(火) 午前十時 歳旦祭並  
 一日講社誕生祭

十四日(月) 午前十時 古神札焼納祭  
(どんと焼き)

## ◆ 二月

三日(日) 午後五時 節分祭

# 社頭風景

9月中旬  
十一月

## 神嘗奉祝祭並びに 年番引継祭

十月十七日午前十時より神嘗奉祝祭が斎行されました。この祭典は伊勢の神宮で行われる神嘗祭の当日、その奉祝の意を全国の神社で表明するために行われるものです。神嘗祭は、その年に収穫された「お米」を、伊勢の神



敬神講社旗授与



年番引継式

宮の大神様に奉り召し上がっていた  
だく祭典です。伊勢の神宮では年間  
で一千六百余りある祭事の中、最も重要  
とされている祭典とされています。

北海道神宮では当日、神嘗奉祝祭が  
厳粛に斎行されました。また、併せて  
斎行された年番引継祭では、第六西創  
成祭典区松野哲也講長より敬神講社  
旗が返還され、次年度新年年番となる  
第七東祭典区中山圭司講長に吉田宮  
司より授与されました。祭典終了後、  
本殿にて前年番への感謝状と記念品  
の贈呈に引き続き、新年番の講長・副

講長への委嘱状が手渡されました。その  
後、参集殿にて新旧年番による引継  
式が行われました。これにより平成三  
十一年度の札幌まつりが本格的に始  
動することになります。

## 新年番 講長・副講長ご紹介

平成三十一年度は、第七東祭典区が敬  
神講社年番となり、例祭の渡御奉仕を頂  
きます。第七東祭典区の代表委員長及び  
代表委員は次の通りです。(敬称略)



第七東祭典区代表委員長  
敬神講社  
講長 中山圭司



第七東祭典区代表委員  
敬神講社  
副講長 関堂勝幸



第七東祭典区代表委員  
敬神講社  
副講長 志村周次



第七東祭典区代表委員  
敬神講社  
副講長 白川敏夫

## 明治祭

十一月三日、御祭神としてお祀りされている明治天皇の御聖徳を仰ぎ明治祭が斎行されました。明治十四年の北海道巡幸の折り、明治天皇には開拓使麦酒醸造所（現サッポロビール株）の麦酒を聞き召されたことから、往時の味わいを再現した「開拓使麦酒」を明治祭の特殊神饌としてお供えされました。

祝詞奏上の後、神楽「黎北の祈り」が奉納され、宮司以下参列者一同で「明治節」を唱和し御聖徳が賛えられました。



黎北の祈り

## 新嘗祭・ 新穀勤労感謝祭

十一月二十三日午前十時、我が国の重要な神事である新嘗祭が新穀勤労感謝祭と併せ斎行されました。二七〇名の参列のもと、北海道神宮神饌田奉斎会を始め、農業・漁業・林業・酒造の各団体代表者が幣帛を献じ、厳肅裡に執り進められました。

祝詞奏上の後、参列者を代表して北海道農業協同組合中央会飛田稔章氏が豊作感謝の祭詞を奏上しました。神前は北海道神宮神饌田より収穫された「ゆめぴりか」十俵をはじめ、多くの方々より奉納された品々で埋め尽くされ、JAさつぽろと北海道神宮校祇講によって奉納された野菜各種の船盛も神門前に飾られました。

また、祭典に先立ち午前七時より北海道神宮北一条駐車場にて、新穀勤労感謝祭実行委員会主催の、第三十六回即売会が行われ多くの人で賑わいました。



野菜の船盛

## 第四十四回北海道神宮 少年剣道大会

九月二十三日（日・祝）秋分の日、北海道神宮少年剣道大会が行われました。結果は次の通りです。

3 位	準優勝	優 勝	出場数	
札苗 剣心会	札幌前田 少年剣道	札幌龍心 少年剣道会	64 チーム	小学生団体
若草スポーツ 少年剣道部	清水菜月 少年剣道部	青木帆乃香 米南少年 剣道クラブ	78 名	小学生個人
札幌西岡南 少年剣道部	札幌龍心 少年剣道会	西澤 彩音 真駒内 少年剣道会	53 チーム	中学生団体
石岡朱姫 剣道クラブ	野崎 菜 若草スポーツ 少年剣道部	小野幌 剣道会	63 名	中学生個人
		宮内 涼来 札幌正室館		
		吉瀬 愛 札幌龍心 少年剣道部		
		柏崎 美優 若草スポーツ 少年剣道部		
		真駒内 少年剣道会		



剣道大会会場

# 第六十回献菓祭

十月五日午前十二時より第六十回献菓祭が斎行されました。

御神前には北海道神宮銘菓奉献会会長田中英雄氏を始め全道各地の会員より銘菓が奉献され、祭典終了後には参集殿にて第六十回献菓記念式典が執り行われました。

神門内ではガールスカウト北海道第八団とボーイスカウト札幌第二団カブスカウト隊による野点の奉仕、香老舗松榮堂によるお香の葉作成体験、日本茶インストラクターリーダー本林富美子氏の呈茶、株式会社美好屋、「北海道焼チーズ」推進協議会による販売会も行われ境内を賑わせました。



奉納された銘菓

第六十回北海道神宮銘菓奉献会「献菓祭」に奉納頂きました皆様方をご紹介します。  
 数々のご奉納ありがとうございます。 (敬称略・順不同)

## 〔所在〕

## 〔奉献菓名〕

## 〔会社名〕

## 〔代表者名〕

札幌市	さつぼろおみやげカシユ	池田食品(株)	池田 光司
札幌市	白い恋人	石屋製菓(株)	石水 利弘
札幌市	水ようかん くず餅	欧風菓子 モン・ジェリ	久木 博光
札幌市	焼きドーナツ	(有)菓子司小鹿	守屋 卓司
稚内市	稚内流水まんじゅう	(有)菓子処久保	小鹿 武志
伊達市	伊達かぶとまんじゅう	(株)菓子処大丸	中村 寿志
北見市	ほつちやれ	菓子処みつや	今野 英一
札幌市	ハスカップもなか	(株)菓子の樹	田中 英雄
札幌市	麻琴物語 フロランタン	曲正 北島製パン(株)	北島 孝雄
木古内町	箱館塩かすてら	(有)菓匠ゆめや	佐藤 敏彦
北斗市	ガトーショコラまんじゅう	(株)北菓楼	堀 安規良
砂川市	北海道開拓おかし	(株)きのとや	長沼 昭夫
札幌市	札幌農学校 南郷通	(株)クランベリー	水戸部 公平
帯広市	くらんじゅ シャンルル	ケーキシヨップあかね	小笠原 隆
札幌市	さつぼろイコロ	(株)五島軒	大窪 和巳
函館市	五勝手屋羊かん	(株)三葉製菓(株)	若山 直
札幌市	ポテリース 北の男爵	(株)シャルロット	小林 孝三
札幌市	札幌時計台	(有)末廣庵	水上 崇
旭川市	「春ゆたか」かりんとう	(株)白松がモナカ本舗	吉本 晋治
札幌市	雪のあしあと 大浜みやこかぼちゃクッキー	(株)清月	白松 一郎
札幌市	白松がモナカ	(株)高砂屋菓子舗	白田 光伸
札幌市	銘菓威臨丸 木古内の坊孝行餅	千秋庵製菓(株)	吉本 晋治
木古内町	モナスク(箱館奉行所)	タケダ製菓(株)	渡邊 孝博
北見市	赤いサイロ 薄荷羊羹	竹屋製菓(株)	渡邊 主人
札幌市	山親爺 ノースマン	中栄菓子舗	佐々木 博史
札幌市	流水みさき 紋太くんチーズサブレ	高砂屋製菓(株)	渡邊 修子
札幌市	えぞ厚焼	タケダ製菓(株)	庭山 修子
旭川市	銘菓そばやき	竹屋製菓(株)	武田 晃和
札幌市	きたな町	中栄菓子舗	鈴木 定彦
小樽市	親子熊羊羹	石倉くるみ餅	村本 利彰
札幌市	金時甘納豆	中ノ目製菓(株)	中ノ目 孝道
札幌市	石倉くるみ餅	石倉くるみ餅	村倉 吉晴
北見市	白花豆パイ	(有)日日ベーカー	新倉 敬臣
函館市	ロマネスク函館	(株)はこだて柳屋	若杉 充宏
旭川市	菓子詰合せ	(株)富留製菓所	福居 恵美子
室蘭市	バターせんべい 紋菓むろらん	(株)富留屋	古谷 公徳
札幌市	夕張メロンピュアゼリー	(株)ホリ	堀 安規良
札幌市	シヨコラブラウニー パレットサブレ	(株)マサル	古谷 健
札幌市	どら焼き	(株)まるぶん	川西 文男
札幌市	お供え餅	(有)八木菓子舗	竹林 和俊
札幌市	元祖三石羊羹詰合	(株)柳月	八木 一洋
帯広市	三方六の小割 あんバターサンド	(有)六花亭	和田 泰昇
留萌市	るもいの星	(株)わかさいも本舗	若狭 洋市
札幌市	わかさいも	シヤトレース	中川 仁
洞爺湖町	焼き菓子詰め合わせ		

# 職場体験学習

札幌市内の中学生が、北海道神宮に於いて授与所を中心に職場体験学習を行いました。

北海道教育大学付属札幌中学校



10月9日(火)

札幌市立宮の森中学校



10月18日(木)、19日(金)

札幌市立向陵中学校



11月21日(水)・22日(木)

# 秋季皇霊祭遙拝

九月二十三日(日)午前九時に神門下で秋季皇霊祭遙拝式が斎行されました。この日は宮中の皇霊殿において歴代天皇・皇后・皇族の方々など皇祖の神霊をお祀りする皇霊祭が行われます。その祭典を遙るかに拝礼し敬意を表しました。



遙拝式

# 北海道神宮頓宮

## 例祭



9月の第3週の日曜日は、頓宮の例祭日です。

9月15日午後6時より宵宮祭、16日午前11時より例祭が斎行され、神楽殿にて能や弾き語りの奉納演芸が行われました。また、地元の子供達による神輿渡御が頓宮周辺で行われ、元気な掛け声が街中に響きました。

## 神話塾



毎年行われている「頓宮神話塾」は、本年も國學院短期大学部月岡先生により、「国のはじめの物語」と題して、11月3日、10日、24日と100名を超える受講者を迎え開催されました。又、本年は北海道150年の節目の年でもあり、12月1日にノンフィクション作家の合田一道先生をお招きし、「北海道150年が意味するもの」と題しご講演を頂きました。

## 神社参拝旅行

「北海道開拓の父鳥義勇のふるさとを巡る」と銘打って三十名の参拝団を組み、十一月十日から十三日までの三泊四日の行程で、神社参拝旅行を実施致しました。特に今回は、銅像建立寄付金で完成した「開拓判官鳥義勇銅像」完成の除幕式に参加することを中心に企画されました。

午前九時三十分からの記念セレモニー、続いての除幕式には、北海道からは吉田宮司、高橋はるみ知事、秋元札幌市長、山田札幌市議会議長、岩田圭剛北海道商工会議所連合会会頭も参加されました。当日は、佐嘉神社正式参拝では、草場宮司



鳥義勇銅像の前にて

様からのご挨拶を頂き、刻々の佐嘉神社記念館での懇親会には、山口佐賀県知事・秀島佐賀市長を始め三三〇名の方々のお迎えを頂きました。



松原神社にて

そのなかで、特別ゲストとして安倍晋三総理夫人の安部昭恵さんの特別講演を拝聴し、西村康稔内閣官房副長官よりご挨拶を頂き、参加者全員和やかな雰囲気の中、終了致しました。

十二日は、鳥義勇の墓所のある来迎寺では、ご住職のお経のお勤めでお参りさせて頂きました。次に鹿島市の矢野酒造を見学、有田町鎮座陶山神社を自由参拝、柿右衛門窯と巡りました。最終日は、宇佐神社を正式参拝、小野宮司様のご挨拶を頂き、大分空港から帰札の途につきました。

今回の行程の中で、毎年四月、当神宮での鳥義勇顕彰祭・同集いに際し数年にわたって佐賀県からは山口知事様を始め多くの関係者の皆様が来札されており、返礼の旅となりました。改めて鳥義勇が北海道開拓の父と呼ばれ、先人達の偉大な功績に敬意を表するところです。

## 開拓判官鳥義勇 顕彰銅像建立

幕末維新百五十年を記念して佐賀の七賢人で「北海道開拓の父」と称えられ開拓神社御祭神でもある鳥義勇開拓判官の銅像が故郷の佐賀県で建立されました。鳥判官の顕彰銅像は北海道神宮境内・札幌市役所一階ロビーに続き三休目となります。十一月十一日鳥判官の「志」を表すかのような晴天の下、午前九時三十分より佐賀県立美術館ホールにて、記念セレモニーが開催され、山口祥義佐賀県知事のご挨拶に続き、高橋はるみ北海道知事・秋元克広札幌市長の祝辞がありました。子供達の見



感謝状の贈呈

事なミュージカル披露があり会場は大いに盛り上がりました。会場では吉田源彦北海道神宮司・開拓判官鳥義勇顕彰会代表世話人と荒邦弘北海道神宮敬神講社第三山鼻祭典区代表委員長に佐賀県山口知事より感謝状の贈呈がありました。引き続き場所を佐賀城跡西の御門橋南側に移動し、除幕式が行われました。佐賀県立佐賀北高等学校ブラスバンドの見事な演奏の後、山口知事より主催者挨拶があり、付近の交差点を「鳥義勇像前」と命名した旨発表があり、アームストロング砲と八百名の参加者の拍手が響き渡る中、除幕されました。参加者一同佐賀と北海道との交流をさらに深めることを確信しあつた一日となりました。



除幕式





神門前にて



高橋知事ご祝辞

# 北海道神宮 敬神婦人会創立五十周年

平成三十年十一月十日(土)午前十時より北海道神宮本殿にて、創立五十年奉告祭を吉田宮司斎主にて、厳肅に斎行しました。

その後、神門下で記念撮影を行い式典会場へ移動しました。十一時三十分より記念講演会・記念式典並びに懇親会を京王プラザ札幌にて行いました。記念講演会に先立ち北海道知事高橋はるみ様よりご祝辞を頂きました。記念講演会では「北海道五十年その歴史と未来」と題して、北海道開拓の村館長中島宏一先生より「佐賀と北海道

との関わり」。

「旧庄内藩と北海道開拓」のお話を中心にご講演頂き、北海道百五十年に相応し内容と相まって参加者の万雷の拍手を以て終了しました。

引き続き記念式典を行い、物故者黙祷後、繁富よしえ会長より式辞があり、北海道神宮吉田源彦宮司よりご挨拶を、ご来賓を代表して北海道神社庁副



繁富会長挨拶

引続き記念式典を行い、物故者黙祷後、繁富よしえ会長より式辞があり、北海道神宮吉田源彦宮司よりご挨拶を、ご来賓を代表して北海道神社庁副庁長芦原高穂様よりご祝辞を頂きました。全国敬神婦人会連合会会長鷹司久美子様・札幌市長秋元克弘様他の祝詞・祝電を披露しました。全国大会表彰伝達では桑原嘉子会員と笠原園江会員が会長より伝達されました。懇親会に移り、西野神社敬神婦人会会長功刀美紗様の祝杯に始まり、スライドショーでは大いに盛り上がり、会員皆で懇親を深め午後二時三十分に応別神社敬神婦人会会長鈴木桂子様乾杯を以って終了しました。

## 『興風』十巻刊行

平成三十年八月十五日に北海道百五十年、札幌興風会創立百十年『興風』十巻が刊行されました。『興風』は札幌興風会会員の歌集で(昭和五十一年に第一巻の刊行後)五年に一度の刊行を行っています。

札幌興風会は、明治四十年四月、当時の札幌神社(現北海道神宮)宮司額賀大直の頃に始められた歌会で、札幌の短歌結社の草分け的存在です。

毎月二十日の旬祭に合わせて献詠祭を斎行し、引き続き月例の歌会を行っています。毎月会報「和歌新万葉」を発行しています。



興風第十巻

# がんばれ！ 北海道

開拓の群像特集

合田 一道



## 歴史から見えるもの ④5

### 本願寺街道を開削 現如上人 大谷光瑩

東本願寺の僧侶、信徒の集団が、北海道開拓のため道路開削に励んだという話を知っていますか。でもなぜ坊さんが開拓に努力したのでしょうか。その背景に、天皇政治へのおのきがあったのです。



現如上人像

まず本願寺の生い立ちに触れると、豊臣秀吉が本願寺に京都・七城堀の地を与えて、寺を京都に移しました。徳川家康は慶長七年、教如に京都・東六条の地を与え、教如を初代とする東本願寺を建立しました。勢力の強い本願寺の力を削ぐ策略だったともいわれます。

こうして二つの本願寺が存在することになったのです。東本願寺が徳川幕府寄りと見られたのも当然でしょう。

慶応二年暮れ、孝明天皇が亡くなり、翌年一月、明治天皇が即位します。十六歳の若い天皇を担いで政治が急速に動き出し、將軍慶喜は大政奉還しますが、慶応四年(明治元年)一月、戊辰戦争が勃発。京都の町は薩摩、長州兵士らで溢れ、東本

願寺は幕府方につくようだ」などの流言も飛び回りました。

東本願寺門跡の厳如は、直ちに朝廷に対して「決して楯突かない。いかなる御用も承る」との誓詞を差し出します。

明治二年五月に箱館戦争が終結すると、朝廷は重点施策として蝦夷地開拓を掲げ、蝦夷地を北海道と命名し、開拓使を置いて開拓に乗り出します。内陸の道路開削について東本願寺から申し出る形で九月三日、沙汰書が出ます。道路開削の先頭に立つのは門跡後継者の現如、大谷光瑩。十六歳。松浦武四郎が踏査して最も必要とした伊達有珠の尾去別から中山峠を越えて札幌に至るコースでした。現在の国道230号です。

明治三年二月二十日、現如は僧侶や信者約百人を従え出立しました。二行は寄附金を集めたり、移民を奨励しながら東海道を進み、木曾路を北上して信州へ。その途中、歌われた歌が残っています。

ととさんかかさんゆかしやんせ／  
うまい肴もたんとおいしい酒もたんとおる／  
エツエツエツエツえじゃないか

この間に新政府は神仏分離令と神道による国教化政策を打ち出します。秋田の本庄から船で函館へ向かう途中、台風に遭遇しながら一行は青森へ。函館の門徒衆らから差し出された船に乗り、七月七日夕、函館に着きました。棧橋には数千人の信者が出迎え、念仏の大合唱が沸き起りました。

現如は布教の中心となる札幌へ赴きます。残る主力は尾去別から開削に取りかかりました。原始

林を三間幅(五・五メートル)に切り開き、そこに幅九尺幅(二・七メートル)の道路を作るのです。それは想像を絶する厳しいものでした。

作業員が足りず、仙台藩巨理伊達家の入植者や移住者、アイヌ民族など合計百人を募り、笹刈りは日給五分、伐採と架橋は割り増し手当を出しました。しかし山中の作業なので、虫に刺されたり、熊や狼の出没におのきながらの作業でした。

こうした苦難を重ねながら本願寺道路は、わずか一年余りで完成しました。総延長一〇三キロメートル、橋は二三カ所、谷への敷板は一七カ所。工事に携わった作業員は延べ五万人を超えました。

中山峠に合掌する現如上人の像が立っています。そばに「本願寺道路」の標識が、また札幌市南区と豊平区の境界付近に「本願寺道路終点」の碑が立っていて、往時を偲ばせます。



「本願寺道路終点」の碑

#### ◆プロフィール◆

昭和九年(一九三四)、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。『定山坊行方不明の謎』『北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』『人間登場』北の歴史を彩る『大君の刀』など。

# 奉賛会だより



## 年頭の辞

北海道神宮奉賛会 会長 岩田 圭剛

明けましておめでと〜うございます。平成三十一年の新春を迎え、心よりお慶び申し上げます。

昨年は台風や地震による自然災害がもたらされ、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げる次第です。

さて、本年は北海道の開拓にあたり、明治天皇の勅命により北海道総鎮守の神として開拓三神が創祀されて百五十年の佳節を迎えることとなります。これを機にあらためて北海道開拓の歴史を紐解き、極寒をもとせず大地を切り拓き、今日の豊かな北海道をもたらしてくれた先人達に感謝を捧げたいと思います。そしてこの豊かさを倍増し次世代に伝えていけるよう、神明の御加護を願ひ会員の皆様とともに北海道神宮に対する奉賛活動に二層励んで参りたく存じます。

平成三十一年度の奉賛会事業と致しまして、十月二十八日に行われました第三十二回境内清掃奉仕は多数の方々のご参加を頂き開催されましたが、途中で天候が崩れ、最後まで行うことが叶いませんでしたが、ご参加頂きました皆様の崇敬の真心に、大神様もお喜び頂けたものと拝察する次第です。奉賛会と致しましては本年も引き続き御祭神の恩頼を仰ぎ、北海道開拓の偉業を成し遂げた先人達を顕彰し、この心を次世代へと伝えるべく活動を行って参りたく存じますので、北海道神宮へのより一層の御崇敬と御協賛を頂きますようお願い申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様には御祭神の御加護のもと、ご健勝にてお過ごしになりますようお祈り申し上げ年頭の辞とさせていただきます。

## 新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会とご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。平成三十年九月一日から十二月三十日までのご入会の方、またご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。(順不同、敬称略)

### 新入会員のご紹介

- 新潟 正
- 沼倉 雅治
- 伊藤 啓二
- 三浦 寿也
- 宮治 理陽
- 小西 広明
- 唐澤 俊崇
- 田畑 良宏
- 佐藤 明代
- 中村 美智子
- 札幌ワインマーケット(株)  
中野 旬太郎
- 中村 理
- 内藤 淳
- 北村 友佳
- 小林 利之
- 高橋 泰仁
- 古川 英照
- 村上 浩平

### 協賛者のご紹介

- ◇ 五千元 新潟 正
- ◇ 一千元 吉田 光臣

## 第三十二回 境内清掃奉仕

北海道神宮奉賛会の恒例行事であります、境内の清掃奉仕が十月二十八日(日)に行われ六十名の皆様の参加を頂き行われました。天候悪化により奉仕が途中で終了となった為、本年度の集合写真の撮影は中止となりました。

## 大祓のご案内

北海道神宮において、毎年六月三十日と十二月三十一日に行われる大祓のご案内を個人会員の皆様にお送りすることになりましたので、ここにお知らせ致します。

## 奉賛会会員

### 神酒拝戴について

初詣の際、一月七日まで神門内に御神酒所を開設しておりますので、三十一年度会員証を提示して御神酒を拝戴してください。尚、お車でお越しの方は、遠慮下さい。

### 〈お詫びと訂正〉

北海道神宮社報「北の志づめ」第二百三号におきまして、東川町町長松岡市郎様、新責任役員若林雅教様のお名前の表記に誤りがありましたことをお詫び申し上げます。訂正させていただきます。



第四回北海道神宮フォトコンテスト入賞作品(山崎久子氏撮影)

---

北の志づめ 第204号

平成31年1月1日発行

---

〒064-8505  
札幌市中央区宮ヶ丘474  
電話 011-611-0261  
FAX 011-611-0264

北海道神宮社務所